

日本気象学会1998年度春季大会ベストポスター賞の受賞者決まる

昨年1997年の気象学会春季大会から講演企画委員会による新企画として、ベストポスター賞の贈呈がはじまりました。これはポスター発表の活性化と内容の向上、さらに大会参加者数の増加を目標としたものです。この目標に従い、以下の点にベストポスター賞の評価基準がおかれまして、

- (1) ユニークで印象に残り苦勞のあとが伺えるようなポスターを表彰する。
- (2) 他分野の者にもわかりやすいお手本となるようなポスターを表彰する。
- (3) 学術的な内容も評価の対象となるが、学会賞や山本・正野論文賞のように学術水準を重点的に評価するものでない。

選考委員が短時間にすべてのポスターを見て評価するのは実際問題不可能なので、1次選考は大会参加者全員にお願いしてあります。受付で大会参加者には投票用紙(3日分)が手渡され、無記名投票により大会3日間を通して連日上位2件ずつ計6件のポスターが受賞候補作品としてノミネートされました。(1日目: EORC/TRMM チーム、浅野孝平他、2日目: 加藤輝

之、山田広幸他、3日目: 伊藤昭彦他、橋本智帆他) 伊藤会員は昨年つくば大会での第1回受賞者であり、やはり多くの票を集めました。また、橋本会員は松葉杖をついての発表であり、片足での長時間に及ぶ発表には、たいへん苦勞されたことと思います。

最終選考は全講演企画委員と本大会及び次期大会実行委員会の代表からなるベストポスター賞選考委員会により行われました。選考委員は6件のポスターを再度見直し、無記名投票によりベストポスター賞1件を選出しました。開票の結果、第2回日本気象学会ベストポスター賞には宇宙開発事業団地球観測データ解析研究センター(EORC)のTRMM チームによる作品が選ばれました(写真1)。TRMM チームを代表して可知会員には松野理事長から賞状、記念品、および副賞として次期大会懇親会招待券の目録が贈呈され(写真2)、ノミネートされた6名の会員全員には、記念品として気象学会特製のマグカップが贈呈されました(デザイン: 楠研一会員)。

ベストポスター賞作品(写真1)は、お手本として全会員に参考にしてもらう一方、講演企画委員会の責

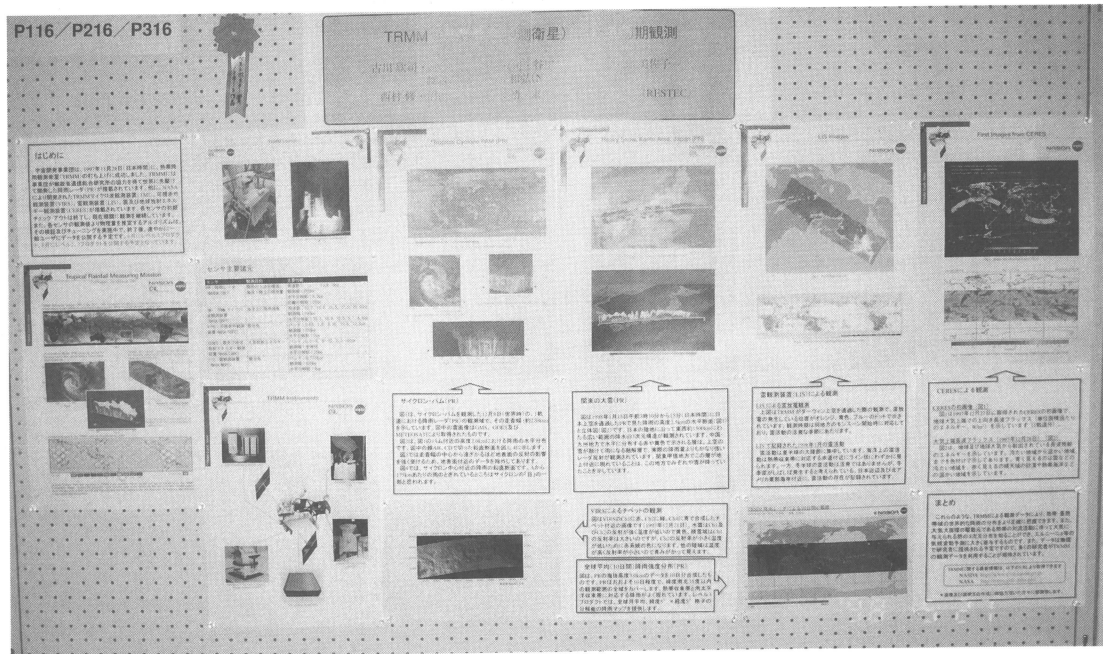


写真1 受賞作品となった EORC/TRMM チームのポスター

任で次期大会（宮城大会）においても掲示してもらうことになっています。

昨年から一般発表はすべてポスター発表となりましたが、不慣れなポスター発表は敬遠されて参加者数が激減するのではないかと、との心配が本企画の動機のひとつでした。しかし、実際には昨年以降ポスター発表件数は急増し、今ではかえってそれが問題化しております。ある会員はこれを称して、「発表者に禁断の木の実を食べさせてしまった。」と言いましたが、ポスター発表の持つ気楽さと十分な議論ができることのメリットを多くの会員に理解してもらえた一方で、未完成で安易な発表が増えているとの可能性も否めません。この点は今後の検討課題として改善を図る必要があります。

（講演企画委員会、田中 博）



写真2 ベストポスター賞の受賞式にて、右は可知美佐子会員。

会員の広場

ベストポスター賞を受賞して

今回はベストポスター賞を授与いただき、大変光栄に存じます。賞をいただきましたポスターの内容は、昨年12月初めに TRMM（熱帯降雨観測衛星）が初画像を取得して以来、これまでに作成された搭載各センサの画像及びデータを気象学会の皆様にご紹介するものであり、今回、地球観測データ解析研究センター（EORC）の TRMM チームが気象学会に提出した3件のポスターのうちの中心的な内容のものでした。この他の2件はそれぞれ、EORCが検証を担当している降雨レーダ（PR）のレベル1プロダクトと地上レーダとの比較についての速報、PRと他の TRMM 搭載センサが同時に降雨を観測した例の報告でした。ベストポスター賞のことは考えてもいませんでしたが、ノミネートが決まった段階で3日間も目立つところに掲示していただけると知り、TRMMの観測を皆様にご紹介するという最大の目的がこれですます果たされるであろうことに関係者一同で喜びました。その上、まさ

か賞までいただけるとは、思ってもおりませんでした。さらに秋の学会に掲示していただけるということで、本当に嬉しい限りです。これも、気象学会の方々の TRMM データに対する関心と期待が高いゆえであることと受け止めまして、今後も一同、引き続きデータの作成と検証・解析に努力する所存です。

ポスターは TRMM に関する3件のポスター（実際は他の学会に出すものもあったので、4件でしたが）を平行して同時に作成する形で行ったため、それぞれのポスターのタイトルと説明文の枠、サイズや色調を統一しました。並んで掲示されない限りはあまり効果のない統一でしたが、偶然か講演企画委員会の方々のご配慮か、3件が並んだ形で掲示となりましたので、かなり効果があったのではないかと密かに考えております。ポスターは規定のサイズを A3 の紙12枚と想定して、これを一枚ずつ埋めていく形で画像と説明文の配置を考えました。TRMM 衛星の観測の特徴、TRMM の各センサの紹介を意図したので、少なくとも5つのセンサ全てについて必ず画像を1枚入れるこ